

不二製油グループ本社株式会社 2023 年度第 1 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2023 年 8 月 8 日（火） 15:30～16:30		
・出席者	上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳
	取締役 兼 上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	田中 寛之
		連結グループリーダー	高村 武邦

Q. 第 1 四半期の営業利益について、会社計画比で教えてください

A. 日本の植物性油脂事業が堅調に推移したことに加え、米州の植物性油脂事業、欧州の植物性油脂、業務用チョコレート、日本の乳化・発酵素材事業が計画を上回って推移した。東南アジアの植物性油脂事業は、昨年度の一過性需要の剥落はあったものの、概ね計画通りに進捗している。

Q. 植物性油脂事業が前年同期比 +15 億円と好調の要因は

A. 昨年度から取り組んできた価格対応に加え、パームの価格が安定的に推移したこと。また、日本ではフライ用油脂の販売が好調に推移し、米国ではフジオイルニューオリンズの固定資産譲渡による前年同期（営業損失）からの改善。更に、認証パーム油の需要が着実に伸長していることも、全体を押し上げている。

Q. 営業利益分析は単価要因が寄与し、数量が弱かったが、営業利益の回復傾向の持続性は

A. タイムラグはあったものの販売価格の改定により収益性が改善した。今後も改善傾向が続くと見込むが、カカオや砂糖などの原料価格の上昇や物流費・人件費などのコストの増加、また、日本においては円安の影響もあり、引き続き販売価格の対応を進める。数量に関しては、ブラマーでは米国の景況悪化の影響があったものの、日本を中心に人流の回復や土産市場向けの伸長があり、通期計画の達成を図る。

Q. ブラマーの通期計画達成に向けた確度は

A. 米国での景況悪化や金利上昇の影響を受け、顧客の中間流通在庫の調整により、販売数量に影響があった。上期までは厳しい状況が続くとみているが、前 CFO の松本が会長兼社長としてブラマーに着任、また、北米グループ会社からは生産性の責任担当役員を派遣、更には、伊藤忠商事より経営人材を招聘するなど、グループ本社によるグリップを一層強化している。昨年度に発生したカカオ加工設備トラブルに関しては再発防止策を徹底するなど対応しており、下期以降の需要の回復を取り組むことで、通期計画の達成を図る。

Q. 中長期的な成長戦略の進捗は

A. ハラルドでは 2023 年 4 月に第 2 工場が稼働し、フードサービスや流通菓子メーカー向けの販売を強化し、販売数量の増加につながっているなど、過去の投資案件の収益化を進めている。また、インバウンドの回復による需要の取り込みや、ブラマーの収益性改善を前述の通り進めていく。

以上